

とれる!

# 多収性品種情報 No. 1

令和3年4月  
岩船農業振興協議会  
村上農業普及指導センター

## 多収穫には穂数の確保が絶対条件 ～早期良質茎確保でスタートダッシュ～

### 技術のポイント

#### ～初期生育促進に向けた技術対策を徹底しましょう!～

- 健苗を適期田植えするための計画的な作業スケジュール
- 品種特性を理解し、特性に合わせた栽培管理
- 漏水対策、適正な水管理で高水温を確保し、活着・分けつ促進

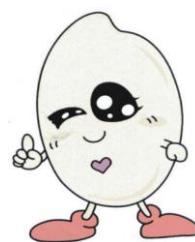
### 1 健苗育成、丁寧な耕耘・代かき作業

- 老化苗は健苗に比べ活着が劣り、茎数増加が遅れます（特に密播苗では徒長など老化による影響が大きく、減収リスクが高まります）。適正な育苗日数（25日を超えない）になるよう、計画的に播種日を決めましょう。
- 作土深15cmを目標に耕耘速度を落として深耕を心がけましょう。深耕で作土が深くなると根が深くまで張り、品質、収量が安定します（倒伏にも強くなります）。
- 水持ちの悪いほ場では、水温が上がらず発根、活着が遅れるので、代かきの回数を1回増やすなど入念に行いましょう（ただし粘土質土壌などでは練りすぎに注意）。また、畦畔の点検、補修も行い漏水防止に努めましょう。

### 2 品種特性に応じた施肥、田植え

- 早生品種は5月上旬まで、中・晩生品種は5月中旬を目安に好天日を選んで田植えを行いましょう。分けつ期間や登熟温度の確保のため、遅植えにならないよう注意しましょう。
- 茎数が十分確保できるよう栽植密度は60株/坪を基本とし、生育量確保が難しい栽培条件での早生品種などでは70株/坪も検討しましょう。
- 過繁茂による細莖化や深植えによる分けつ抑制を防ぐため、1株苗数3～4本、植え付け深さ2～3cmとなるよう、植え付け中に状態を確認しながら田植機の設定を調節しましょう。
- 基肥量は分施体系では窒素成分で7kg/10a、基肥一発肥料では13kg/10aを目安としますが、必ずほ場毎の地力の違いなどに合わせて施肥量を調節しましょう。また、肥料選定の際は高窒素基肥一発肥料を選ぶなど省力、低コストを心がけましょう。
- 苗の老化防止と活着促進のため、田植えの4～5日前に箱当たり窒素成分で1～2gの移植前追肥を実施しましょう。

省力化も大事だけど、収量に直結する穂数確保に向けた管理はサボらず確実に!



### 3 田植え後の水管理

- 多収穫に向けて目標穂数を確保するためには、早期に分げつを発生させることが重要です。春は用水が冷たいので、水温上昇を促進するため「早朝のかん水と日中の止め水」を励行しましょう。

#### ☆ 植え傷みを防止し、初期生育を早期に確保するためには？

- ① かん水は早朝に行い、日中は止め水として水温上昇と保温に努める。
- ② 活着までの間は、やや深め（3～4 cm）の水管理で苗を保護する。
- ③ 活着後は、浅水管理（2～3 cm）で水温上昇を図り、分げつの発生を促進する。
- ④ 低温や強風の時は、一時的に深水にして保温（苗の保護）する。

- 気温の上昇に伴いワキ（生わら等の分解等により発生する有害なガス）が発生し、根腐れや生育停滞を起こします。用水の更新（夜間落水）を図りガス抜きを行い、根の健全化に努めましょう。

### 4 病虫害・雑草の防除

- 多肥栽培条件では、抵抗性の強弱に関係なくいもち病が発生しやすくなります。育苗箱施用剤を基本に必ず葉いもち防除を行いましょう。
- ゆきみのり、ゆきん子舞、ちほみのり等割れ粃の発生しやすい品種や、周囲の品種との出穂期の差が大きい条件の早生品種栽培では、草刈り等のカメムシ対策を徹底するとともに、カメムシ類に登録のある箱施用剤の使用を検討しましょう。
- 前年に紋枯病の発生が目立ったほ場では伝染源の菌核が多く残っているので、箱施用剤等により早めの予防を心がけましょう。
- ほ場条件・対象雑草に合った除草剤を選び、注意書き（使用時期、使用量、使用方法など）を良く読んで、正しく使いましょう。

#### ☆ ヒエは田植え後5日（代かき後、1週間程度）で1葉になります。

- ① 「移植後〇〇日まで」「ノビエの〇.〇葉期まで」と記載されている場合は、代かき後日数を考慮して、除草剤散布を遅れないように注意しましょう。

ヒエの葉齢到達日（田植え後）

| ヒエ葉齢   | 田植後日数   | 調査方法                 |
|--------|---------|----------------------|
| 1.0 葉期 | 4～5 日   | 代かき後 3 日で<br>田植えした場合 |
| 2.0 葉期 | 7～10 日  |                      |
| 2.5 葉期 | 10～13 日 | 調査場所：長岡市             |
| 3.0 葉期 | 13～16 日 |                      |

- ② 除草剤の種類に応じた散布時の水深を十分に確保しましょう。  
（特にフロアブル剤やジャンボ剤等は5cm程度の深水）。

※除草剤処理後7日間は入・落水をしないでください。

※処理後4～5日間は湛水状態を保ちましょう。

**\* 品種ごとの特性、栽培方法等については、普及センター（TEL：52-7930）又はJAへお問い合わせください。**

（「ちほみのり」「つきあかり」「ゆきん子舞」「あきだわら」「新潟次郎」については村上地域版の栽培暦があります。その他の品種についても、育成した研究機関等から情報入手できる場合があります）